

OBON SOCIETY（ソサエティ） 活動概要資料

令和8年　2026年　皇紀2686年



大分県竹田市「寄せ書き日の丸」返還式での記念撮影（令和７年２月１２日）
クリス・ドーシー氏（元米兵のひ孫）、工藤 賢 氏ご夫妻、水落敏栄会長、レックス＆敬子ジーク、地元関係者一同

OBONソサエティ は「生きた証」を通して 先人の想いを未来の世代へつなぎます。

©OBON SOCIETY, Astoria Oregon, USA

はじめに

戦没された一人一人の日本兵にも、かけがえのない家族がいました

今もなお、何十年という歳月を越えて、失った大切な人を想い続ける家族がいます。
遺骨も遺霊品も戻らなかった多くのご家族にとって「寄せ書き日の丸」の返還は
戦没兵の魂が、家族のもとへ会いに帰ってくることを意味します。

私たちの活動は、ひとつの個人的な「体験」から始まりました。
ビルマ（現ミャンマー）で戦没し、未帰還兵であった敬子の祖父の「寄せ書き日の丸」が、２００７年（平成１９年）遠くカナダから家族のもとへ返還されたのです。

その奇跡の体験から、世界のどこかに同じような旗が数多く残されているのではないかと考え、私たちは念入りな調査を続けました。そして、先の大戦の戦利品として持ち去られた「寄せ書き日の丸」が現在もなお無数に現存している事実を知るに至りました。

戦争で失われた尊い命。海外で戦没した兵士たちの遺骨や持ち物は、多くの場合、家族のもとへ返ることはありませんでした。その中で、旗は戦没者と家族をつなぐ、唯一の「魂の証」となり得るのです。

「一枚でも多くの日の丸を家族のもとへ返したい！」その思いを胸に、私たちは米国オレゴン州を拠点として活動を続けています。

かつて敵国同士だった日本とアメリカ。戦後80年余りの歳月の中で、両国の関係は大きく変わりました。国際結婚をした私たちにとって、日本もアメリカも、どちらも大切な「祖国」です。

アメリカには亡くなった日本兵を心から想い、日章旗を返還することで、過去の歴史とわだかまりに区切りをつけ、これからの未来を平和と友好のもとで歩みたいと願う人々がたくさんいます。

私たちは現場に身を置く者として、その温かな想いを日本へ届ける「橋渡し役」を担うことこそ、
OBONソサエティの使命であると感じています。

人の心に「国境」はありません。家族を想う気持ち、誰かの大切な人に敬意を捧げる思いは、
国が違っても分かち合うことができます。旗の返還という目に見える行為の奥には、目には見えない「平和」「友好」「和解」への真摯で温かな願いが込められています。

全米をはじめ世界には、まだ帰ることのできていない日章旗が数多く残されています。
一枚一枚の返還を通して、「平和」と「友好」の輪が、世界へと広がっていくことを願っています。

心を込めて

OBONソサエティ 代表
レックス＆敬子 ジーク

平和を我らに－OBON ソサエティ

動画「平和を我らに」（３分半）
スマートフォンのカメラをかざして
ご視聴頂けます。

©OBON SOCIETY, Astoria Oregon, USA

組織概要

活動団体名　OBON SOCIETY / OBONソサエティ（非営利団体／オレゴン州公認非営利組織）

活動の目的

非営利、非政治、非宗教の立場から、「寄せ書き日の丸」などの遺霊品を日本のご遺族へお返しする活動を通じて、文化や言語、宗教、世代、そして歴史認識の違いをこえ、互いを尊重し合う「和の精神」で、未来へつながる友情と理解の輪を広げていくことを目指しています。

活動の概要

日章旗（遺霊品）を返還したい方とご遺族をつなぐ橋渡しの活動を行っています。
旗は敬意をもってお預かりし、無償で日本のご遺族へお返ししています。
2009年の活動開始以来、厚生労働省や日本遺族会をはじめ多くの方々の協力を得て、これまでに約3,500件の返還依頼を受け、800件以上の旗を日本へ返還してきました。
また、オレゴン州アストリアでの常設展示や講演会、YouTube（動画）やソーシャルメディアなどを通じて、心のつながりを未来の世代へと育む取り組みも展開しています。

組織の沿革

2009 年　5月：OBON 2015 と命名し活動を開始
2015 年　8月：終戦70周年記念 首相官邸において 安倍総理表敬訪問
2015 年 12月：外務大臣表彰 受賞
2016 年　1月：OBONソサエティ に活動名を変更
2016 年 12月：「旧日本兵の遺霊品取引禁止」をeBayに要望し、自主規制という形で達成
2017 年　8月：OBONソサエティ の活動が国内外メディアで報道
2019 年　8月：日本遺族会 と遺霊品返還に伴う再委託契約を締結
2020 年　7月：YouTube「秘話」動画シリーズ開始
2023 年 11月：令和5年秋の叙勲「旭日双光章」を受章
2025 年　9月：終戦80周年記念 ワシントンDC アーリントン国立墓地慰霊訪問

組織所在地　米国オレゴン州、アストリア

お問合せ

手紙など郵送先住所： P.O. Box 282 Astoria, Oregon 97103 U.S.A.
Eメールアドレス：　contact@obonsociety.org
ウェブサイト：　http://obonsociety.org
Facebook (フェイスブック)：　https://www.facebook.com/OBONSOCIETY/
YouTube (ユーチューブ) : https://www.youtube.com/user/OBON2015/videos
X (旧ツイッター) : https://twitter.com/obonsociety
活動支援に関するページ：https://obonsociety.org/jpn/page/donate

©OBON SOCIETY, Astoria Oregon, USA

代表者プロフィール

レックス・ジーク

米国オレゴン州で生まれ育った木こりの息子で、高校卒業後は中南米で先住民の生活記録を学び記録する。その後、写真家（１９９２年５月Life紙掲載）、記録映画カメラマン（１９９３年エミー賞受賞）となる。
ワシントン州の森で樹齢９００年の森林が大企業によって伐採される寸前に、レックスが工夫して考慮した熱意の訴えにより、伐採から免れ 森が保護地区となり現在も無事に生息している。
レックスの独自研究により、ルイス＆クラーク探検隊の歴史記録の矛盾を発見、ワシントン州ゲリー・ロック知事指名によって、知事の諮問委員会となる。レックスの新たな発見がキッカケとなり米国内務省が記念して、新たな国立公園を制定する。
２００９年より、レックスと敬子で OBONソサエティ の活動を開始する。

敬子・ジーク

京都で生まれ育つ。小学５年生から剣道を始め８年間修業（剣道二段）。高校卒業後は日本と英国で美容師免許取得。豪華客船で勤務後、 持ち前の社交的な性格から、豪華客船で士官に就任、世界各国をクルーズする日本人や世界中からのお客様の接待を務める。
２００７年に祖父の「寄せ書き日の丸」が返還され２００９年に結婚したレックスと共に、OBON ソサエティ の活動に取り組み 現在まで至る。



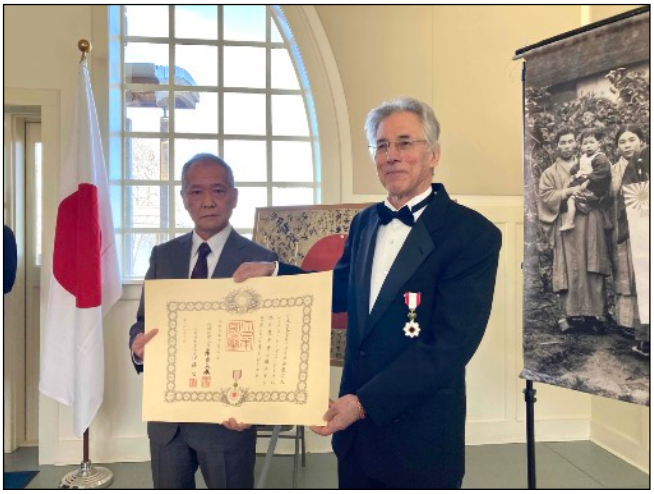
オレゴン州アストリア日章旗返還式典より



首相官邸において安倍総理表敬訪問



返還依頼を受けた「寄せ書き日の丸」とレックス＆敬子 ジーク



レックス・ジークは、米国における対日理解の促進及び日米間の友好親善に寄与したOBONソサエティの功績が認められ旭日双光章を受章

©OBON SOCIETY, Astoria Oregon, USA

欧米と日本における「旗」の概念の違い

日本人にとって「寄せ書き日の丸」とは、先の大戦で出征する兵士へ武運長久を祈り、愛する一人一人が心を込めて直筆で署名やメッセージを日章旗に寄せ書きしたもの。それを受け取った日本兵達は、丁寧に折りたたんで肌身につけ戦地へと赴いた。当時、殆ど全員の日本兵が１～３枚の「寄せ書き日の丸」を身に付けていたとされている。つまり、日本人にとっての「寄せ書き日の丸」は、日本人の精神性を象徴するものであった。

一方において、欧米諸国においての「旗」は、全く違った意味をもつ。西洋の歴史において、戦地における「旗」は、敵味方の軍を識別するための重要なツールであり、交戦を先導するための役割をもっていた。そのため、敵軍の「旗」を戦利品として納めることは、大変名誉な事とされ、実際に敵軍の旗を持ち帰った兵士は大きな手柄をたてたと賞賛され、名誉勲章が手渡されることも多かった。

そのような旗に対する文化認識の違いから、欧米兵にとって「寄せ書き日の丸」は、戦利品の中では、一番人気があった。日本兵の全員が身に付けていたので、多くの連合軍兵士達が入手できたことも、多くの旗が今も現存している理由の一つだ。日本語が読めない連合軍兵士たちにとっては、そこに何が書かれているのか理解する術は、なかったのだ。

OBONソサエティ はアメリカを中心として欧米諸国に、寄せ書き日の丸の意味を正しく伝えることで、旗返還を通じた平和啓発を続けている。



出征する日本兵（OBON SOCIETY 所蔵資料）

©OBON SOCIETY, Astoria Oregon, USA

遺霊品の所有者は何故、ご遺族へ返還を希望されるのでしょうか？

OBONソサエティは、遺霊品所有者に返還依頼をする理由を尋ねました。

今まで誰にも語る機会がなかった彼らは、秘めた気持ちを私たちに打ち明けてくれました。
QRコードをスマートフォンのカメラにかざすと日本語字幕付きで動画をご覧いただけます。

「秘話」エピソード２３

祖父の寄せ書き日の丸を
譲り受けた孫が、来日して
返還式でご遺族へ手渡すまで
のエピソードを語ります。

「秘話」エピソード２４

叔父の寄せ書き日の丸を
譲り受けた甥が、長年に渡る
返還までの気持ちを語ります。

「秘話」バドおじさん
（パート１）前編

叔父の寄せ書き日の丸を
譲り受けた姪が、返還までの
経緯と不安を打ち明けます。

「秘話」バドおじさん
（パート２）後編

寄せ書き日の丸が返還終了後に
ご遺族から届いた手紙を読んだ
姪の反応はいかに？

「秘話」エピソード１９

戦利品として米国軍事博物館で
展示していた寄せ書き日の丸が
全米で初めて返還できることに
なった秘話。

「秘話」エピソード全集

秘話 全集を視聴できます。
一枚の旗を通じての「想い」
をお届けします。

OBONソサエティは、遺霊品返還を通じて未来へつながる友情と理解の輪を広げていくことを目指しています。

ホームページ：https://obonsociety.org

©OBON SOCIETY, Astoria Oregon, USA